

令和８年度第１回幕別町総合教育会議議事録

１ 開催日時 令和８年８月21日（金）16時50分～17時45分

２ 開催場所 幕別町教育委員会会議室

３ 協議事項

アイヌ文化交流センターを拠点としたアイヌ施策の推進について

４ 出席委員（６名）

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	笹原 敏文
教育委員	小尾 一彦
教育委員	岩谷 史人
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり

５ 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山端 広和
〃 政策推進課長	宇野 和哉
〃 政策推進課副主幹	中田 周呼
幕別町教育委員会教育部長	谷口 英将
〃 学校教育課長	甲谷 英司
生涯学習課長	木村 純一
学校教育課総務係長	小野 敦

６ 傍聴者

なし

７ 議事録

（政策推進課長）

ただいまから、令和８年度第１回幕別町総合教育会議を開催いたします。はじめに、町長よりご挨拶を申し上げます。

（町長）

アイヌ文化交流センターが１０月１日にオープンすることとなりました。今後、アイ

ヌ文化をどのように継続し、継承していくかが課題であると考えています。施設整備にあたり重視してきたのは、日本初となる公設のアイヌ語講座の開設です。私はこの施設を「第2のウポポイ」として各地でPRしてきました。現在、幕別町百年記念ホールでアイヌ語講座が実施されていますが、アイヌ語は口承文化であり、文字を持たない言語です。そのため、公設のアイヌ語講座を進めていきたいと考えています。

また、10月から開始できなかった取組として、指定管理があります。2019年にアイヌ政策推進法が制定されましたが、同法には生活支援の考え方が含まれていません。そのため、アイヌ政策推進交付金を活用し、アイヌの方々を中心としてNPOの活動を支援していくことが重要だと考えています。現在は、再来年4月を目途に指定管理を導入したいと考えており、今年5月に北海道アイヌ協会理事長に就任した小川哲也さんにもご意見を伺いながら進めてまいります。

いずれにしても、今後の取組が重要です。皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、円滑なスタートにつなげたいと考えています。本日はよろしくお願いいたします。

（政策推進課長）

本日の協議事項は、「アイヌ文化交流センターを拠点としたアイヌ施策の推進について」の1件です。ここからの進行は、幕別町総合教育会議の運営に関する要綱第4条に基づき、町長にお願いいたします。

（町長）

それでは、協議事項の(1)「アイヌ文化交流センターを拠点としたアイヌ施策の推進について」事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

（町長）

ただ今の説明に関しまして、委員の皆さんからご質問などありましたらお願いします。

（岩谷委員）

教育委員会職員2名、会計年度任用職員2名、地域おこし協力隊員1名、コーディネーター1名の計6名で運営されとのことですが、今後、収蔵品の受入れが進む中で、管理や修復も課題になると思いますが、スタッフに学芸員は含まれていますか。

（生涯学習課長）

現在のスタッフ6名で、収蔵品の修復等に対応することは想定していません。

ただし、修復や受入れなどの必要が生じた場合には、北海道博物館の学芸員や、札幌

学院大学でアイヌ文化に造詣の深い教授などで構成するアドバイザー会議がありますので、専門家の意見を伺いながら進めてまいりたいと考えています。

（教育部長）

補足しますと、教育委員会職員２名のうち１名は学芸員の資格を有しており、アイヌ文化を専攻した職員です。今後、情報発信や研究を担っていくものと考えています。

（町長）

修復には専門的な技術と知識が必要なため、専門家に委託することになると考えています。実際に、陣羽織も専門家に委託して修復しました。高度な技術を要するものは外部に委託し、展示物などの企画については、学芸員を中心にアドバイザー会議の意見を踏まえながら進めてまいりたいと考えています。

毎年８月下旬に「イチャルパ」という慰霊祭を行っていますが、現在、祭司の担い手がない状況です。現在は帯広アイヌ協会から来ていただけていますが、今後はアイヌ語の活用を含め、祭司を担える人材を養成していく必要があると考えています。

（小尾委員）

アイヌ文化交流センターの事業体制において、町民との結びつきをどのように重視していくのかが気になります。町民の関心を高める取組について、お考えを伺います。

（教育部長）

吉田菊太郎氏が収集したアイヌ文化財は、アイヌ文化を研究する上で欠かせない重要な資料です。一方で、その価値が町民の皆さんに十分知られていないことが大きな課題と認識しています。まずは、吉田菊太郎氏が収集した資料の価値を理解していただけるよう、地道に情報発信を続けます。将来的には、パークゴルフ発祥の地やオリンピックのまちと同様に、幕別町のアイヌ文化を町民の誇りとして感じていただけるよう周知してまいります。

（町長）

大きな目玉があるわけではありませんが、ウポポイに約２３点の資料を貸し出していることから、貴重な資料があることは間違いありません。陣羽織や緑色のシントコ（行器）なども、ぜひ見ていただきたい資料です。見学をきっかけに、料理教室や刺繍体験などにも参加していただき、実際に文化に触れる中で関心を深めてもらいたいと考えています。アイヌの方々だけで文化を継承することは難しいため、多くの和人の方にも参加していただき、ともに文化に触れ、学びながら継承していくことが必要だと考えています。

（小尾委員）

幕別町には、モハチヤやオンネナイといった地名があります。こうした地名の多くは、アイヌの人々が土地の特徴などにちなんで付けたものです、自分の住む地域の地名の由来を知るとは、アイヌ文化に関心を持つきっかけになると思います。そうした情報を紹介できれば、十勝や幕別のアイヌ文化を身近に感じ、より深く理解してもらう契機になると考えています。

アイヌ文化交流センターが、地域の人にとって、自分の住む地域や幕別町、さらには北海道内の地名の由来を知ることができる場所になれば、身近に感じてもらえ、関心も高まるのではないかと思います。

（教育部長）

展示館の展示内容は概ね固まっていますが、伝承室の一角とフリースペースにライブラリーコーナーを設けたいと考えています。展示館に入らなくても、来場者が身近にアイヌ文化を学べるよう、書籍や小尾委員からご提案いただいた地名に関する情報などを掲示し、アイヌ文化への理解を深めていただける取組を進めてまいりたいと考えています。

（岩谷委員）

生活館と展示館の利用終了時間に差があります。午後５時以降は展示館には入れませんが、生活館を利用している方が展示館へ移動できる可能性があるため、セキュリティ面が心配です。

（教育部長）

運用上の対応となりますが、生活館は事前予約がある場合、最大午後１０時まで利用可能です。その際には職員も在館します。生活館を午後１０時まで利用する場合は、展示館を施錠する形で運用してまいりたいと考えています。

（小尾委員）

今後の企画展示に向けて、小助川先生ともつながりの深い北海道大学の小川先生とも関わっていただくと良いのではないのでしょうか。

（教育部長）

今後の展示館の運用に当たっては、展示アドバイザー会議を設置する予定です。メンバーには、小川先生をはじめ、ウボボイの副館長を務めておられる内田先生などに加わっていただく予定です。吉田菊太郎氏の収蔵物目録は過去に３冊作成されていますが、そ

の作成に携わった先生方の多くにも、アドバイザー会議にご協力いただくようお願いしています。また、幕別百年記念館の学芸員にも、今後の展示館の在り方について引き続きアドバイスをいただく予定です。さらに、先ほどご提案いただいたアイヌ文化に造詣のある町内出身の方からも助言をいただきながら、取組を進めてまいりたいと考えています。

（國安委員）

オープンまで1か月ほどとなりましたが、新しい施設が建っているものの、「何の施設だろう」と思っている方が多いのではないかと思います。よく見れば分かる方もいるかもしれませんが、十分に周知されていないのはもったいないと感じます。せっかくPRできる時期ですので、オープンまでの期間にカウントダウン形式で周知するなど、工夫してはいかがでしょうか。

（生涯学習課長）

看板は設置する予定です。また、国道沿いにあるため、開発局にも働きかけながら、「この先何mにセンターがあります」といった案内看板の設置についても協議する予定です。

（國安委員）

私が教育委員になって最初か2回目の会議で考古館の説明があり、吉田菊太郎氏の文化財をどのように伝承していくかという内容だったと記憶しています。その際、私は「そもそも考古館はどこにあるのですか」と会議の中で発言したことを覚えています。今も同じように知らない方がいらっしゃると思いますので、せっかくの機会ですから、文化財がここに保存されているということだけでも町民の皆さんに知っていただけるよう、ぜひPRしていただきたいと思います。

（岩谷議員）

このアイヌ文化交流センターには、愛称はあるのでしょうか。

（生涯学習課長）

施設の北側には川が走っています。そこから西側に進むと、直角三角形のようなエリアがありますが、その一帯を片仮名で「チロット」という愛称にしています。

（東委員）

先ほど、フリースペースに幕別町や北海道のアイヌの歴史に関する書籍などを置くとの説明がありました。加えて、本物でなくても良いので、アイヌ文化に関連する資料に

自由に触れられるスペースにできれば良いのではないかと感じましたが、いかがでしょうか。

（教育部長）

先ほど課長から、施設を含む周辺全体の愛称を「チロット」と説明しましたが、実は、展示館と生活館も愛称があります。展示館はアイヌ語で「ウチャシクパ」といい、「言い伝え」という意味とのことです。生活館は「ネンサル」と言いまして、「喜び」「楽しい」「明るい」といった意味を持つアイヌ語の愛称を付けています。今後、これらの愛称を積極的にPRしていきたいと考えています。また、ロゴマークも作成しており、今後はキャラクターの制作も検討しております。

東委員がおっしゃったように、フリースペースにはトンコリとムックリという楽器を置いています。ムックリは口で演奏するため、取り扱いについては今後検討していきたいと考えています。また、様々な体験講座を実施し、参加者に制作していただいた刺繍なども展示することで、身近にアイヌ文化を体験できるスペースとして活用してまいりたいと考えています。

（國安委員）

先日、沖縄を訪れた際、施設ごとに違うスタンプがあり、それを重ねていくと最後に一つの素敵な絵になる取組を見ました。幕別町でも3館が連携して取り組むとのことでしたので、ぜひ取り入れていただければと思います。

（教育部長）

地域おこし協力隊を任用し、3館の連携事業を検討していただいています。幕別町内に3つの文化施設・展示施設がありますので、それぞれが効果的に連携し、観光などにも寄与できるよう取組を進めています。

（岩谷議員）

学校には依頼されると思いますが、ぜひ一度は子どもたちに施設を見学していただきたいと思います。できれば、施設見学に加えて何らかの体験活動を行えるようにすれば、学習意欲や学習の質がさらに高まるのではないかと考えています。

（教育長）

昨日開催された十勝管内の教育長が集まる研修会で、私から施設について説明したところ、すでに豊頃町と上士幌町からは、高齢者の方々の学習会として見学したいとお話がありました。今後、さらに注目されていくものと考えています。

（國安委員）

交通の便があまり良くない印象がありますが、まぐバスが運行する予定はないのでしょうか。

（町長）

それは難しいと考えています。

（岩谷委員）

バス停から施設までの距離はどのくらいですか。

（町長）

バス停は施設の目の前にあります。

（岩谷委員）

バス停の名称を変更していただくことは可能でしょうか。

（教育部長）

現在のバス停名は「考古館前」となっていますので、現状のままで良いのではないかと考えています。

（町長）

他に皆さんからありませんか。

それでは以上をもちまして、令和8年度第1回幕別町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。